新刊の新書・文庫

書名	著者	出版社	刊行年月	内容概略
教育投資の経済学	佐野晋平	日経文庫	2024年1月	家庭学習やICT教育などの影響、家庭の役割はどのくらいか、ゆとり教育は有効だったかなどを経済学的に分析。周りの情報を鵜呑みにしないための本
日ソ戦争	麻田雅文	中公新書	2024年4月	日ソ戦争は第二次大戦最後の全面戦争である。ソ連による条約破棄、非人道的な戦闘に加え、米国のソ連参戦要請、満州など各所での戦闘の実態、終戦までの全貌を描く
「戦前」の正体	辻田真佐憲	講談社現代新書	2024年5月	神武天皇、教育勅語、万世一系、八紘一宇…。右派が誇り、左派が恐れる「戦前日本」の本当の姿とは? 「国威発揚」の物語を検証する
沈黙の中世史	後藤里菜	ちくま新書	2024年7月	中世は「暗黒の時代」ではない。新進の中世史家が祈る人、戦う人、働く人、そして沈黙を破る人たちの声をたどりながら、感情史の魅力を語る。
サステナビリティの経済哲学	松島 斉	岩波新書	2024年8月	ゲーム理論と情報の経済学を用いて、利己的動機や評判の形成といったアプローチのドグマをあばき、持続可能な新しい経済システムを構想する。
ヨーロッパ近世史	岩井 淳	ちくま新書	2024年8月	近年、複合国家論などが提唱されるなかで、近世ヨーロッパを多様な地域が複雑に絡み合う歴史的空間と捉え、複雑なうねりをダイナミックに描き出す
歴史学はこう考える	松田裕作	ちくま新書	2024年9月	史料とはなにか。それをどう読んでいるのか。そこからオリジナルな議論をいかに組み立てるのか。歴史について語る前に、最低限知っておきたい考え方を解説する。
介護格差	結城康博	岩波新書	2024年9月	経済、医療・健康、情報、地域、親類・縁者、世代間、意識の7つをキーワードとして、介護保険の実態や課題をあますところなく解説。
インターネット文明	村井純	岩波新書	2024年9月	インターネットは、趣味や仕事から医療や安全保障までを包摂するひとつの「文明」と化した。そこにはどのような人類史的な課題や使命があるのか。
従属の代償	布施祐仁	講談社現代新書	2024年9月	米軍は日本全土に対中戦争を想定した、核を搭載可能なミサイルを配備しようとしている。この未曾有の難局に、私たち日本人はいったいどう対処すればよいのか?
蔦屋重三郎	鈴木俊幸	平凡社新書	2024年10月	歌麿、写楽、京伝ら江戸文化のスターたちの作品を巧みに売り出し、江戸文化の最先端を演出・創造した版元「蔦重」こと蔦屋重三郎(1750-97)の伝記
蔦屋重三郎 江戸の編集した男	田中優子	文春新書	2024年10月	吉原を振り出しに、幕府の取り締まりをかいくぐりながら、才人鬼才を発掘、歌麿・写楽を世に出した「蔦重」を通して、江戸文化とは何かを再考
ホワイトカラー消滅	冨山和彦	NHK出版新書	2024年10月	少子高齢化・デジタル化の進行で、人手不足はローカル産業で、人余りはグローバル産業で起こり、従来の思考のホワイトカラーには生き残る道はない
論理的思考とは何か	渡邉雅子	岩波新書	2024年10月	論理学・レトリック・科学・哲学の推論の型とその目的を押さえ、価値に紐付けられた四つの思考法(経済・政治・法技術・社会)を使い分ける、多元的思考を説く。
教員不足	佐久間亜紀	岩波新書	2024年11月	少子化にもかかわらず、事態が深刻化するのはなぜか。過密化する業務、増大する非正規、軽視される専門性など、問題の本質を独自調査で追究。
反逆罪	将基面貴巳	岩波新書	2024年11月	聖性と裏切りをめぐる西洋近代の血塗られた経験を読み解き、現代を生きる私たちが直視すべき国家の本質を描き出す。
シュンペーター	中野剛志	PHP新書	2024年11月	約00年前にイノベーションの意義を見出したシュンペーター。彼の理論が今日の資本主義の本質を理解するうえできわめて有効なことを明らかにする。

生成AIと脳	池谷裕二	扶桑社新書	2024年11月	AIなくして成立しない世界が訪れたとしても、人が愚かになることは決してない。人間にはAIができない能力があり、その価値は失われない。
蔦屋重三郎と浮世絵	松嶋雅人	NHK出版新書	2024年12月	数多ある版元の中で、なぜ蔦重だけがこれほど注目を集めたのか。話題を呼ぶ浮世絵を次々に手掛け、江戸を騒がせた蔦重の独自の仕掛けとは。
ピーター・ドラッカー	井坂康志	岩波新書	2024年12月	全体主義を批判し、企業とそこで働く自由な人間に未来への可能性を見出したドラッカー。彼の晩年を知る著者が「マネジメントの父」に新たな光を当てる。
グローバルサウスの時代	脇祐三	光文社新書	2024年12月	欧米側にも中ロ側にも与せず、大国間の綱引きの状況を利用して、自国の安全保障と経済的な利益を確保しようとする彼らは一体どんな思考体系と行動原理を持つのか
睡眠の起源	金谷啓之	講談社現代新書	2024年12月	生物は「脳を休めるために眠る」と考えられてきた。それは本当なのだろうか。しかし脳を持たないヒドラも眠るという。眠りの世界から見えてくる生物進化の不思議
日米首脳会談	山口航	中公新書	2024年12月	トップ同士の会談や人間関係は何を生み出してきたのか。米国14人、日本28人の首脳による150回に及ぶ会談を追い、70年以上に渡る日米関係を政治指導者を通して描く
シンボルエコノミー	水野和夫	祥伝社新書	2024年12月	古びた理論にしがみつく日本政府や日銀、経営者、そして中世化する日本経済。発想の転換をはかり、世界に先駆けて「定常状態」に向けるにはどうしたらよいか、
東アジア現代史	家近亮子	ちくま新書	2025年1月	日本・中国・朝鮮は鎖国の終焉と共に近代化を迫られた。西洋列強の外圧、植民地化や二度の大戦を経て、劇的な経済発展を達成した歴史を振り返る。
アメリカ・イン・ジャパン	吉見俊哉	岩波新書	2025年1月	「黒船来航」「B29空襲」「マッカーサーと天皇」。さまざまな出来事や事象を、日本、アメリカそれぞれのまなざしの下にとらえ「日本の中のアメリカ」に迫る
イスラエルの自滅	宮田律	光文社新書	2025年1月	人質救出を名目に「ガザ侵攻」により無辜の人々の命を奪い、戦線を拡大させるイスラエル。彼らの行動原理と目的はどこにあるのか。
ユダヤ人の歴史	鶴見太郎	中公新書	2025年1月	民族離散、移動先での繁栄と迫害、差別。そしてナチスドイツによる絶滅計画を経て、建国。建国後のパレスチナ人追放、中東戦争…。三千年に及ぶ雄大な民族史。
日本経済の死角	河野龍太郎	ちくま新書	2025年2月	労働法制、雇用慣行、企業統治、イノベーション。日本経済の長期停滞をよみとく際の「死角」や誤算を白日に晒し、「収奪的システム」から抜け出す方途を明示する。
軍事戦略入門	石津朋之	平凡社新書	2025年2月	近代ヨーロッパ戦略思想史の礎を形成したクラウゼヴィッツから近代以降のヨーロッパに登場した10人の戦略思想家を紹介し、戦略思想史の系譜を綴った1冊
リンカン	紀平英作	岩波新書	2025年2月	南北戦争という分断の危機において、彼はいかにして「人民の共和国」という統合の理念を構想しえたのか。政治的リーダーシップの源泉を問う評伝。